

クロロというのは、ぼくと二軒隣の同級生Y君が付けた名前だ。全身真っ黒でどこにもまじり毛がないので、これ以外の名前はあり得なかった。首輪をしているから飼われていたには違いないが、現れて以来、何日たつても誰も引き取りには来なかった。

学校から帰ると、Y君といっしょにクロを追いかけ回したりして遊んだ。クロは吠えかかることもせず、挑発するようなそぶりも見せたので、子どもにとつては格好の遊び相手だった。

遊び仲間を見つけてしまったことがクロを大胆にしてしまったのかもしれない。どこで寝ているのか分からなかったが、頻繁に近所の家々に入入りするようになり、庭を掘り返したり、追われて鉢物をひっくり返したりした。大人たちは腹立たしく思っていたが、クロは、若くすばしっこく、手を拱いていた。

野良犬は保健所に連れて行けば引き取ってくれることをY君もぼくも知っていた。ここはぼくたちで連れて行くしかない、クロがついてくるとしたらぼくたちしかないし、みんな困っているから。二人でそう話し合った。

Y君が家から持ち出したパンを見せると、クロは近づいてきた。難なく首輪をつかんで縄を結んだ。ひっぱると、抵抗もせずについてくる。自分が先になった

り後になつたりしながらY君とぼくといっしょに歩いて。遊び相手のままで。

保健所に着いた。野良犬を連れてきたことを告げると、白衣を着た男の職員が出てきて何やら言い、促された方へ行くと鉄格子の檻が見えた。ポケットから出した鍵束で職員が扉を開けた。金属の擦れる大きな音がした。

縄を檻の方へ引つ張ると、クロはなぜかすんなりと中へ入った。職員が再び扉を閉め鍵をかけた。はしやいでいるようにも見えたクロだったが、急に物静かになつて、ゆつくりとこちらに体を向けて座り、ぼくたちの方を見た。ぼくは、息をのんだ。その目に浮かんだ底の抜けてしまったような怯えがぼくを貫いた。

帰り道、Y君もぼくも押し黙ったままだった。「一畑パークのライオンの餌にされるんだと。」

Y君がどこから聞いてきたのか、そんなことをつぶやいた。

最後に見たクロの目は、その後も度々浮かんでぼくを苦しめたが、だんだん間遠になり、そのうちめつたに思い出すことはなくなつた。でも、また何十年ぶりか思い出した。あれと同じ目をまた見ることに成りほしくないか、そんな不安が、ある子について話し合っていたとき、急によぎつたのだった。



専業ババ奮闘記(その2) 23

木幡智恵美

スイカのおっつあん(3)

朝ご飯を食べながら、「途中気が付いたら、すごいスピードで走つて」と息子。早朝の高速道路は車が少なく、どんどん飛ばしてしまうのだろう。聞いていて背中がぞくぞくとする。無事に帰ってくれたのは有り難いが、「帰りは絶対スピード出さないでよ」と釘を刺す。

いつもなら、一泊か二泊で帰ってしまうのに、今回は三泊した。食事は長男の好きなものを毎日並べ、最後の夜は、真夏だというのにキムチ鍋に。神戸に泊まりに行くと、「今夜何作ろうか」と聞くと、大概「キムチ鍋」というほどの極好きメニューだ。その頃の私はまだ勤めに出ていたので、さつと帰つて支度をした。翌日仕事だということで、朝ご飯用のおにぎりを持たせ、暗くなつた駐車場から送り出す。「絶対スピード出さんでよ」と念を押して。

「免停食らつた」とのメールが入つたのは、秋の気配がし出した頃のこと。やはり、帰省する際のスピードオーバが度を越していたようだ。十月の初旬、部屋掃除を主目的に息子に会いに神戸に向かった。この年は四週続けて台風が週末に到来し、休みなしのせいもあつてか、ひどく疲れた様子で、いつもなら鍋一杯のキムチ鍋をあらかた平らげるのに、あまり減らない。「会社から、一年間車の運転禁止を命じられた」。仕事疲れだけでなく、この免停車の手続きやらで大変だつたうえ、会社からもそういう命令が下されたのだから落ち込むのも無理はない。肩を落としたまま自転車で仕事に向かう息子を送り出し、部屋の掃除の続きをしながらつくづく思う。災難ではあつたけど、事故でも起こしていたら大変なことだつた。相手がいないし、自分の身も無事だつたのだから不幸中の幸いだ。気が付くと、部屋から出たごみの袋十二袋をアパートの四階から降ろすのに、五往復していた。ごみ処理を終え、駐車場の空きスペースを眺める。線をはみ出して停まっていたワゴン車、あれは幻だったのか。

30代フリーター やあ、ジイさん。報道各社の世論調査で、菅内閣が歴代内閣の中でも上位の高い支持率を得ている。次の衆院選での自公圧勝、野党惨敗が目に見えるようだ。

年金生活者 それでも、この政権が示す「民は由らしむべし知らしむべからず」の姿勢はいつか国民の批判にさらされる可能性がある。

各社の内閣支持率は朝日新聞65%▽毎日新聞64%▽日本経済新聞74%で、支持の理由は社によって少しずつ異なっている。朝日新聞は「他よりよさそう」の41%が最も多く、「首相が菅さん」23%、「政策の面」20%と続く。この結果を報じる記事は、安倍内閣の傾向と比べると「他よりよさそう」が少なく、「首相」を理由に挙げた人が多い、と説明している。毎日新聞は「政策に期待が持てそうだから」が35%で最多、日経新聞は「人柄が信頼できる」の46%が最も多かった。

これらの結果から推定できるのは、新型コロナウイルス対策と連動させながら「縦割り行政・既得権・悪しき前例主義の打破による大胆な規制改革」を掲げる政権の政策を国民の多くが歓迎し、新首相にはその実行力があると評価しているということだ。菅はそれにこたえるように、内閣が発足するとすぐさま各担当閣僚に「縦割り110番」の設置や「デジタル庁」の新設、不妊治療への保険適用といった目標を指示した。

30代 野党は太刀打ちできるのか。年金 菅政権は役所を標的とした、国民受けする政策によって民を「由らしむ」ことにスタートダッシュで成功したと言える。それと対照的に、「知らしむ」ことはできるだけ避ける構えを見せている。

朝日新聞の世論調査では、森友・加計学園問題や桜を見る会の問題の解明を進めるべきかとの問いに54%が「進めるべきだ」と答えているが、新政権は前政権と同様に再調査を拒否している。「国民のために働く内閣」を自任する菅は結果さえ出せば、その過程な

うと、何をするかわかったものではない。そんな懸念を多くの国民はぬぐえないに違いない。

年金 それを無視してデジタル化を進める方法として、中国のように独裁によって国民を強制するやり方がある。それはアメリカを脅かすほどの成果を挙げているが、日本ではSF映画のス

どは「知らしむ」ことをしなくても、国民は納得すると考えているのかもしれない。

しかし、経済的な自由の拡張で自尊心をふくらませている現在の国民にとって、「大胆な規制改革」を歓迎する気持ちと、「知らしむ」ことを求める気持ちは同根であり、いつまでも政権の姿勢を容認し続けるとは限らない。

30代 国民の批判が高まるとしたらどんなときだろう。

年金 政権の目玉政策のひとつである「行政のデジタル化」には、国民が自らの個人情報に預けることが不可欠だ。それに国民が納得するには行政の徹底した情報公開が必須の条件となる。だが、安倍政権の継承を掲げる菅政権は前政権の隠蔽体質も引き継ぐことになるので、デジタル化はつまづきのもとになる可能性がある。

行政のデジタル化について朝日新聞は「安倍政権でも何度も成長戦略に盛り込まれながら、ほとんど進まなかつた経緯がある」と報じている。実現に

トリーにすることすら難しい。

残る方法は「何をするかかわらない」政府を「何をするかわかる」政府にすることしかない。それには徹底した情報公開が必要だ。文書を黒塗りだらけにして開示するなど論外だ。だが、不徹底な公開の現状をあらためるだけでは、国民の懸念は消えないだろう。森友学園問題に端を発した財務省の公文書改竄や、加計学園、桜を見る会の問題を再調査して、うやむやなままの真相を明らかにすることが最低限必要だ。

その必要はないとする菅政権の方針は、自らの目玉政策を妨げる要因になりかねない。今のままでは、国民の多数は政権を支持しても、この政策にはノーを突きつける可能性がある。

30代 ジイさん、行政のデジタル化が小泉政権の郵政民営化のような人気政策になるかもしれないと言ってたぞ。

年金 菅政権が方針を変えない限り、その考えはあらためなければならぬ。

ニュース日記 755
中村 礼治

「由らしむべし知らしむべからず」政権

30代 国は個人情報にさらさざるを得なくなる。それに対する警戒感、抵抗感の強さは、カードの普及率が2割にとどまっていることが示している。

30代 国は個人情報に個人の監視や追跡に使うのではないか。コロナ対応のずさんさを見れば、情報が流出するのも心配だ。まして、首相やその身内の不祥事を隠すために公文書の改竄までした政府のことだ。情報を預けてしま